

2021年2月

2021年3月10日発行

NPO 法人 わっか 月次報告書



27



だれもが、まるごと受けとめられる社会をつくる

わっかは、だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動当初は、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

遊び場に来てくださる方の声に応えたくて2015年7月から、古民家の開放をはじめました。

毎週月曜日の放課後、日曜日は月に1、2回開けることから始めた古民家開放は

わっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。



第二十七号

目次

放課後児童クラブ さかっこクラブ	柳生のび	4
眠れない夜に	佐藤真紀	5
お弁当・おかずづくりを通じて	あすか	6
事業報告		3
月ようわっか		7
平日わっか		8
かめラボ		9
日ようわっか		10
一月にいただいたご寄付		11
編集後記		12



さかっこクラブでのコマ

放課後児童クラブ さかっこクラブ 柳生 のび

さかっこクラブでは、「期待しない保育」を保育指針のテーマに掲げ、日々子ども達と向かっています。その具体的な柱として、①「子どもと一人の人間として向き合う保育」②「選択の自由を保障する保育」、③「子ども文化を育む保育」を掲げています。今回は③について、少しお伝えできたらと思います。

「子ども文化を育む」この言葉は、敬愛している、ある学童保育所の指導員さん（今は支援員）の言葉です。とても難しい表現で、この言葉の意味を、ボク自身いまだにきちんと分かってはいません。今の一つの理解として、子ども同士の関わりが積み重なって、子ども達それぞれの色が混じり合い、そこに特有の世界観ができあがり、その場に、その子達がいなくても、そこに生きる子ども達の息づかいがわかるような雰囲気醸成されている状態を指すと考えています。子ども達の中に自主性が生まれ、それぞれが織りなす日常のひとコマが色鮮やかに輝いている、そんな様子になったとき、子ども文化はひとつの形になるだろうと思っています。ただ、そこで終わりではなく、そこからの変化が続いていくことで、はじめて文化になっていくんだと思います。

ボク達は、まず、その前提になる「それぞれがやりたいことができる環境」をつくってきました。それぞれが今やりたいと思えることができること、そして、それを受けとめる大人（スタッフ）がいることが大切にならなければならない、でも楽しい、子ども達の日常を一日一日つくってきました。子ども達が自分の生活に主体的に関わるためには、自分で選んで物事を変えられる環境が必要です。その環境をつくるのは、大人の仕事です。

今、その環境が気の良いスタッフに支えられ、出来上がりつつあります。ボク達は、そこから一歩進んで、子ども達が自分の生活に関わってもらう意識づくりをはじめています。まず、話すことから。自分の思いを少しでも言葉にしてみることを大切に、毎週金曜日にお話を始めました。テーマはさまざまに、とにかく話してみることを繰り返し実践しています。まだまだ、ボク達スタッフも拙いし、子ども達も浸透するほどやり込めてはいません。でも、少しずつ芽を吹き出しつつあります。そこで話したことで友達に伝えることができるようになったり、クラブ全体の雰囲気が変わったりしています。

これからは、クラブでの生活を大人に委ねるのではなく、自分達次第で良くも悪くもなることを実感してもらいながら、子ども達と一緒にクラブの生活をつくりあげていきたいと考えています。少しずつ、子ども達だけで生活が成り立つようになったら嬉しいなと思っています。



(c)Maki

眠れない夜に

佐藤真紀

昼の賑わいから離れて、夜にひとりでいる時間。しんとした時間は深く自分を見つめる時間でもある。ただ、それは時につらくなる時間でもある。そして、寂しい時間でもある。

ここ二週間、深夜の時間帯に「眠れない人が立ち寄り、ぼそぼそ話して立ち去る部屋」というオンラインルームを開いている。毎日二三時から翌三時頃まで開けているこの部屋には、一日あたり五〜六名が立ち寄ってくれ、この間だけで五〇人近い人とお話をした。

年齢層も性別もさまざまだし、そこで聞かせてくれることも多岐にわたる。例えば、生きかたに迷った学生や、日中は専門職として生活をしていても、ふっと息を抜きたくなった人、どうもうまく伝えられないけれど、なんとなく話したい人も来たりする。時には社会的に避難されると思われることを吐き出しにくる人もいる。本当にさまざまな立場の人が扉をトントンとたたき、やってきて、ぼそぼそ話して去っていく。

私はたちよった人の声に耳を傾け、どんな価値観の話も内容でも、ただ聞くだけ。人は、誰かに寄りかかりたいときもある。誰にも話せないことを吐き出したいときもある。そんな時に立ち寄ってくれたらいい。リアルな場所も大切だけれど、そんな場所がオンライン上に存在してもいいと思っている。そんなオンライン上の場所は街のロビーのようなものかもしれない。バーテンダーがいて、立ち寄った人々の思いや音に耳を傾けて、好みのカクテルを提供する。そして、明日も少しだけ生きてみようかと思ひ、立ち去っていく場所。

どうして、こうしたオンラインサロンを開設してみようとしたのか、少しだけ話を遡らせると、COVID-19以降に徐々にであるけれど、広がっていた「分断」が可視化されるようになってきた。近くは、大学生の五人に一人が生理用品を買うことの困難さを経験していたり(生理用品の軽減税率適用を求める『#みんなの生理』が二〇二一年三月四日に発表)、若年女性の自殺率上昇、遺児の中には大学進学をあきらめる高校生や中退を考える大学生の増加(あしなが育英会調べ二〇二〇年十一月三十日NEX報道)、生活困窮状態におちいり、ここ数か月で生活保護に陥る世帯などだけでなく、実際に家出をする若者に出会うことが増えてきた。そうしたことの一手として、ある中核市で月に一回「夜の子どもの居場所」をスタートさせた。ただ、それだけでは隙間ができてしまうのではないかとの思いで、オンラインの部屋を開けている。

私がかつて「今回、生活困窮やDV以外にも岩場の陰に隠れていた問題が可視化されるはずだ」と(二〇二〇年四月二六日岐阜新聞掲載)と指摘させていただいたが、この社会は見えないことにされていることが多いかと思っている。可視化されはじめた今、絆創膏を貼る対処療法を始めたばかりではあるものの、そうしたことの延長線上にしか根治療法は存在しない。だからこそ、今はひとつひとつの声を聴き、向き合い積み上げていくことが必要なのではないかと思ひ、もうしばらく踏ん張ってみたいと思ふ。

さとうまき @19hz (Twitter)

現場から現代社会を思考する/ファシリテーター/ソーシャルワーカー/地域:東京,岐阜,滋賀/領域:地方自治,若者,子ども,虐待,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/



金曜恒例のおばあちゃん弁当。ホタルイカがお得だったので里芋と煮付けに



アジを煮付けにしてみた。茶色の勢力が圧倒的だったのでにんじんが助太刀に。



今日のお弁当一。ブロッコリーが森みたい。



パン好き女子へのお届けパン。お腹下してご飯は食べられなくてもパンは食べれるらしい

わっかとあすの木 @wacca_asunoki (Instagram)

いままでのお弁当は、わっかホームページの Instagram で見てね。

毎週 月よう日 15:30 ~ 20:00

子ども 30 名 (22 名) おとな 7 名 (0 名)

月ようわっか

() 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

1日 子ども 5 名 (4 名) 大人 1 名 (0 名)

メニュー：ごはん、豆腐とえのき、わかめの味噌汁、筑前煮、ほうれん草のおひたし

8日 子ども 8 名 (5 名) 大人 1 名 (0 名)

メニュー：ごはん、大根とこんにゃくの味噌汁、白菜と豚肉の煮浸し、ヒラ天のきんぴら

15日 子ども 11 名 (9 名) 大人 4 名 (0 名)

メニュー：ごはん、里芋、大根、人参の味噌汁、アジフライ、カニクリームコロッケ、ホウレン草と舞茸の炒め物

22日 子ども 6 名 (4 名) 大人 1 名 (0 名)

メニュー：ごはん、鱈の味噌汁、豚肉の味噌野菜炒め



平日わっか

毎週火～金요일に開いている場です。参加費無料・申込不要。月요일と同じように、カリキュラムやプログラムは一切なしで、ただ開いている場です。そんな場所に集う人たちと、ゆったりとした時間を過ごしています。



下校中の子供たちに、不自然だろうと感じつつ何かしら
用事をしているかのように道沿いに立ち、「おかえりー」
と挨拶をしています。先日もいつものように

「おかえり」と言い

「寒いねー」と声をかけると

「寒くないしー」との返事。

「え？さむくないの？めっちゃ寒いんだけど」と答える
と

「あんだ、ハゲだから寒いねん」

「ああ、なるほど。だからかー」

「そうやって。えー知らなかったん？」

「うん、みんな寒いと思っていた。ハゲのボクだけが寒
いの」

「そうやって」

と歩きながらの会話。

こんど、出会ったらハゲと坊主の違いをきちんと伝えよ
うと思う。ぼくは、ハゲではない坊主であると。

そんな楽しみができて嬉しい。

(だいのすけ)

かめラボ

子どもたちの「〇〇したい」にできる限り全力で応える場。ある少年は「教員の人事異動を予想するプログラムをつくりたい」と言いました。いまは、姫路城が好きな少年が、マインクラフトで姫路城を作成するのを応援しています。



手の込んだ料理はいいものです。でも、こういったラーメンとか蕎麦のように、どーん！1品で食べられるものもいいんです。

金曜日の夜と一緒にご飯を食べる子たちとは、チャーハンとか、ラーメンとか、そういう、どーん！と1品を食べ続けています。

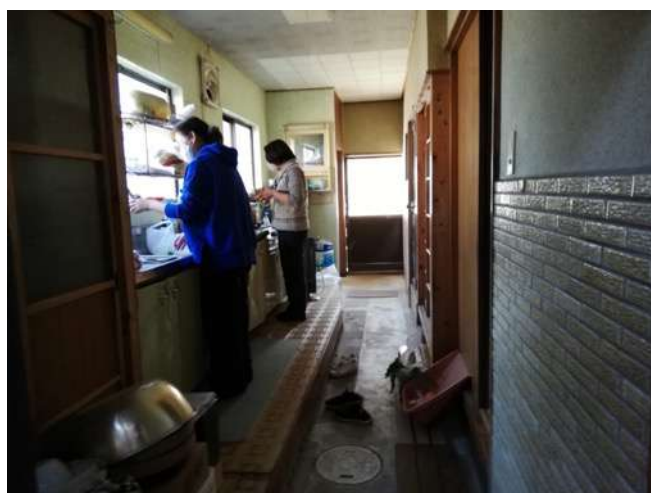
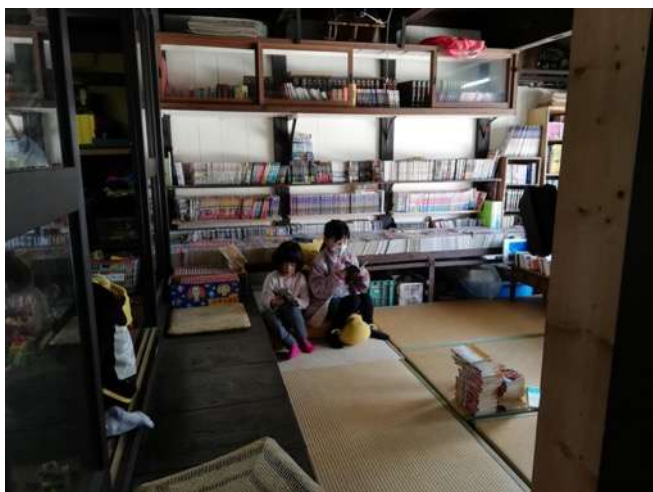
まあ、週に1回こういうご飯もいいよね、と。なにより「うまい！」という声を聞けるのが嬉しいです。

ときどき 日曜日 10:00 ~ 15:00

子ども 21 名 おとな 10 名

日ようわっか

月に1回程度、お昼に古民家を開放しています。お休みの日なので、ここに、くるのは小学校高学年まで、親子連れが中心です。親子できていた子が大きくなったら一人で「月ようわっか」にくるといふこともあります。



この日の取材の様子は3月22日以降に Youtube に上がりますので、Facebook でお知らせします♪

2021年2月に頂いたご寄付

物品でのご寄付 **6**名（団体）敬称略

- ・ 4日 書き損じハガキ（匿名）
- ・ 4日 古紙（わかかの常連）
- ・ 5日 ミニトマト（2000 縁やさい箱）
- ・ 5日 おかし（寺島）
- ・ 5日 おかし（西村）
- ・ 20日 カレー、炊き込みご飯の素（Glico）



マンスリーサポーター **28**名

大溪麻紀子、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀、佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐、石田智子、佐藤笑代、三輪恵美、南出吉祥、柴原隼、鈴木愛子、荒巻りか、吉田尚子、永峰美佳、津田千恵子、べっかむ、西村（敬称略）

都度ご寄付 **1**名

5000円（匿名）

助成・補助団体、応援企業 **14**団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社、真如苑、いっぽまえクラブ
社会福祉法人 米原市社会福祉協議会、公益財団法人 信頼資本財団、タノシニア合同会社
一般社団法人 全国食支援活動協力会、公益財団法人 さわやか福祉財団、マコトヤ、紙 eco
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会、NPO 法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ
（敬称略 2021.3.10 現在）



編集後記

先日、地元のテレビ局が日ようわっかに撮影にきてくださいました。そのとき、ずっときてくださっている方にインタビューをしてくださり、ふだん聞くことのない声を聞かせていただきました。それはこんなものです。

子どもが小さい時からここにお世話になっていて、わっかとともに育っています。本当にありがたい場所です。というものでした。

こちらから一緒にすごしている方に思いを聞くことはないです。なので、こうやってインタビューを通じて、この方がわっかでの時間をどのように感じているのかを知ることができました。

子どもたちは、日ようわっかのところの写真にものせましたが、カメラがきているので、いつもよりテンション高めでした。

それでも、これまでの積み重ねがあるからか、ふしぎと場の雰囲気はいつものように、落ち着いたものだったように感じています。

(だいのすけ)

活動をさらに充実していくために

28名のマンスリーサポーター、クラウドファンディングや資金でのご寄付をくださる方、SNSを通じていただく応援によって、活動を継続することができています。ありがとうございます。

いまの活動を継続すること、さらには古民家をあける時間を少しでも長くすること、個別の関わりを充実させていくために資金を必要としています。

関わるスタッフが現在、ボランティアで行っている古民家開放や若者との生活・就労サポートに、より集中できる環境をととのえるため、さらに**295万円のご寄付を必要**としています。

これまでの7年間の活動で、古民家に集ってくださる方がいます。また、集う時間以外でも、古民家の存在に安心でいるといった気持ちを届けていただいています。また、しんどさを抱えている方への個別のサポートも行えています。

わっかの運営は、みなさんのご寄付で支えられています。ぜひ月1000円から応援できる「**わっかマンスリーサポーター**」に参加していただけないでしょうか？

ご寄付は古民家の運営費、個別のサポート等にに使わせていただき、報告が月次報告でさせていただきます。

マンスリーサポーター登録ページ

<https://www.congrant.com/project/wacca/724>



団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059 (代表)
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	https://npo-wacca.org
Facebook	 こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	 アカウント名 @NpoWacca
Youtube	 アカウント名 振角大祐